

低密度居住地域用モビリティク ラウドの開発と実装

(112303015)

山梨大学 佐々木邦明 武藤慎一

TIS株式会社 中村三夫

背景と目的

低密度に居住
する地区では公
共交通の存続
は難しい




自動車利用が進
んで一定の自動
車交通量がある



両者をうまく
マッチング
できれば？


開発したシステム概要

自動車のあいている座席を
地域のモビリティ資源と見なす



村のスーパー
にはよく行く

モビリティが高い層
インターネットを使いこなす



そろそろ
買物をしないと

モビリティが低い層
インターネットは少しだけ

高齢者の外出支援による
地域の活性化



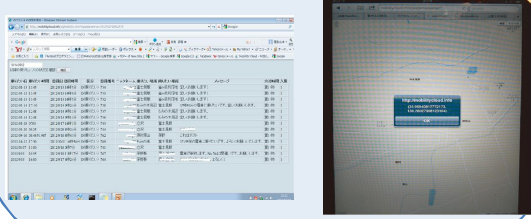
同乗促進基盤

Web基盤

ローカル基盤
(モデレータ)

需要・供給情報の登録

マッチング作業・
結果の通知・
待ち合わせ地点の連絡



同乗して買物等に

少ない需要を考慮して
需要オリエンティッドマッチング

実証実験(長野県原村原山地区)



- 山梨県と長野県の県境（ハケ岳麓）に位置する。
- 約15の集落が村内で約2kmおきに点在。
- 総人口は約7,500人、高齢化率は約27%。
- 農業が基幹（高原野菜等）、ペンション業も増加。
- 村内コミュニティバスのルート外の集落あり。

実証実験結果と改善

実験と運営

- 関係各組織との打ち合わせ□
- システムの構築と調整□
- 実験開始に向けた調整□
- 供給者の募集とモデレータ確保□
- 9月半ばより実証実験開始□

無償の運営

利用登録12世帯
実験開始後一ヶ月で
予約件数 2件

- 課題点の抽出と改善策の検討□

世帯訪問及び調査

- 利用者登録の案内
- チラシの配布と口頭説明
- ◇「現在の移動手段」について
- ◇システムに関する質問・意見
- 実証実験開始の案内
- 道具の配布と口頭説明
- ◇外出頻度や現在の生活について
- 利用状況の報告

インタビューにより、予約不振の原因の検討

需要喚起策とその効果

12月末: ニュースレター1号発行・訪問による配布

1月: 当日予約制度, 及びポイント利用制度導入開始

1月19日: 原山地区自治会にてシステムの説明

1月中旬: ニュースレター2号発行・訪問による配布

2月下旬: ニュースレター3号発行・訪問による配布

3月下旬: ニュースレター3号発行・訪問による配布

主要な需要喚起策

- 自治会での説明会
- ポイント券の導入
- 定期的な世帯訪問
- ニュースレターの配布
- ドライバーとの顔合わせ会企画
- 顔写真付きの案内

利用予約件数 1月:3件 2月:4件 3月:3件

需要喚起策によって予約件数は増加傾向にあり、登録者のほぼ全員が利用した

今後の研究開発成果の展開及び波及効果創出への取り組み

- 新たな展開可能性の検討
 - － 中学生・高校生の通学のための送迎負担の軽減
 - － 同じ目的地への通学・通勤の支援
- 波及効果創出への取り組み
 - － 地域ボランティア団体等の行っている生活支援との連携
 - － 地域のソーシャルキャピタル醸成のためのネットワークづくり支援